

序

古くから鞆、鞆の浦、鞆の津、鞆町とも呼ばれる広島県福山市鞆町は、瀬戸内海の中央に位置し、万葉の時代から「潮待ちの港町」として繁栄してきました。

中世には、すでに港湾都市としての発展が明らかとなり、室町幕府最後の将軍・足利義昭が、鞆に居住して、小幕府の様相を呈した時期もあります。

近世には、北前船などでにぎわう商港として著しく隆盛するとともに、朝鮮通信使や琉球使節、オランダ商館長などが度々寄港する国際的な海駅としても重要な位置を占めていました。特に、朝鮮通信使が、福禅寺の客殿・対潮楼に宿泊し、そこからの眺めを「日東第一形勝」と絶賛したことは有名です。

現在の鞆の町並みは、こうした歴史の重みを土台として変遷しながら発展してきたもので、今も江戸時代からの商家の主屋、浜蔵など、本瓦葺を用いた風格ある伝統的な建物が、鞆港のシンボルとなっている石造の常夜燈、船着場の雁木などの港湾施設と一体的となって鞆ならではの景観を形成し、港町として繁栄した往時の様相を容易に偲ぶことができます。

雅な文化も華開き、古くからの伝統行事である「お手火神事」、「お弓神事」、渡守神社の「秋祭り」が今日まで連綿と継承されています。近年、復活した「鞆の津・八朔の馬出し」や新たな「鞆・町並ひな祭」なども、町の活性化に大きな役割を果たし、これらを支える住民は、人情味にあふれています。

この歴史に彩られた町並みを保存しようと、福山市では1975年度(昭和50年度)に、最初の町並み調査を行い、翌年にその報告書を発刊しました。その後、1996年度(平成8年度)に策定された『鞆地区まちづくりマスタープラン』において、鞆地区の計画的かつ総合的なまちづくりの指針が示され、町並み保存を具体的に推進することとしました。これを受けて、1997年度(平成9年度)から2年間をかけて町並み現況調査を実施するとともに、1998年度(平成10年度)から、建物の修理・修景に対する単市補助事業に取り組んでおります。

2010年度(平成22年度)からは、町並みの特性をより明らかにするため、各専門家、地元代表者で構成された調査委員会を設置し、2年間にわたり各種調査を実施してまいりましたが、このたび、これらの調査成果がまとまり発刊の運びとなりました。

本報告書を基として、地域住民の皆様のご理解と御協力をいただき住民と行政が一体となり、先人が築きあげた伝統的町並みを未来へ伝えて行きたいと考えております。

最後になりましたが、今回の調査を実施するにあたり、御指導をいただきました文化庁、広島県教育委員会をはじめ、御尽力いただきました調査者の先生方や大学の皆様、調査委員会の各委員、快く調査に御理解と御協力をいただいた地元の皆様に、心から敬意を表しますとともに、厚くお礼申し上げます。

2017年(平成29年)5月

福山市教育委員会教育長 三好雅章

